

国語

「なぜだろう?」から始まる意見交換
～さまざまな視点・立場から意見を考えてみよう～

年 組 番 氏名

【取り組みのねらい】

新しい高校学習指導要領では「言語活動の充実」を重視しており、言語活動例として明示されている「話し合いや討論などを行う」の中の「反論を想定する」視点は、国語科目標の「伝え合う力」における「互いを尊重する」ための具体的な手段である。生徒たちにとつて最も身近で、最も新しい「生きた情報」である新聞を使い、他者意識を養いながら、「伝え合う力」を段階的・継続的に鍛える。

ステップ1 「情報に対するアンテナを高くしよう」

「知識基盤社会」に対応するために、常に新しい情報に反応し、敏感にキャッチする力を養うと同時に、言語活動を行うにあたっての発言の根拠となる知識、情報を得る。

ステップ2 「その情報に対して、自分なりの意見を持つよう」

他者と対等に交流するために、まず自分なりの考えを持つ。

ステップ3 「自分以外の視点や立場での意見を考えてみよう」

さまざまな視点や立場で物事を見ることができ、相手の立場を尊重する意識を養う。場合によっては、次のステップとして相互の意見を尊重、反映した上で、解決策を考える場を設定する。

「生きる道これしか」

比台風 相次ぐ略奪 警察黙認

食料や水の支援が行き届かない住民の略奪が止まらない。猛烈な台風30号が直撃したフィリピン・レイテ島タクロバンの中心部。現場の警備担当者や警察も手が出せず、黙認するだけだった。「被災した家には飲み物も食べるものもない。とりあえず、ここで生きる糧を手に入れるしか道はない」ショッピングモール



フィリピン・レイテ島タクロバンのショッピングモールから商品を略奪する住民11日(共同)

の前で、店内から食料を運び出す兄を待ってさん(20)は、悪びれた

様子も見せず、きつぱりと言いつつ、家族は8人。幸い犠牲者は出なかったが、自宅は暴風雨で崩れ、自宅跡にシートを張って雨露をしのいでいる。コメと飲料水、缶詰を大きな袋に入れて背負ってきた兄のジムさん(25)も「今、大切なものは現金ではなく、食料だ」と話した。自宅と店の間を一日に2、3往復するという。イエンヌさんによると、店内にはライフルやナイフを持ったグループもいて危険だというが、住民らが淡々とがれきの中から商品を運び出す姿が印象的だった。「ただ見守るだけだよ」。店から約50メートル離れた場所で、交通整理

に当たっていた男性警官は、仕方なさそうに話した。店の前にいた警備員のサイモン・カウイオラさん(26)は、支援の手が届かない住民に理解を示す。普段は万引や強盗に警戒するが、この日は自身も店内から持ち出したビスケットやジュース、水を手にして「死ぬわけにはいきませんから」と話していた。(タクロバン共同)

【課題】

2013年11月に台風30号が直撃したフィリピン・レイテ島では、復旧が進まない中で略奪が相次いだ。「現代を生きる者として、どうすべきか」について、前記ステップ①～③を踏みながら話し合おう。

コピーを生徒に渡す際、左記の指導アドバイスは消してからコピーしてください。

【指導の留意点】

教材「羅生門」読解の参考としても活用可能。発展課題の扱いで現代を生きる者として「仕方がない」で終わらず、さまざまな視点・立場で見ることによって解決策まで導き出すよう促す。生徒の反応によっては、ステップ③に取り組み際に「どのような立場が考えられるか」と投げ掛けることで、生徒の見方の視野を広げる手助けをする。

【授業での活用方法と工夫】

毎時間、授業の導入部分で新聞記事を配布した。印刷室に「新聞記事BOX」を設置し、国語科の教員がそれぞれ集めた記事の切り抜きを入れ、誰もがいつでも活用できるようにした。他教員のストックを活用することもでき、複数の視点で選ばれる記事は、分野や話題がさまざままで知識・情報を得る(ステップ①)上で効果的であった。